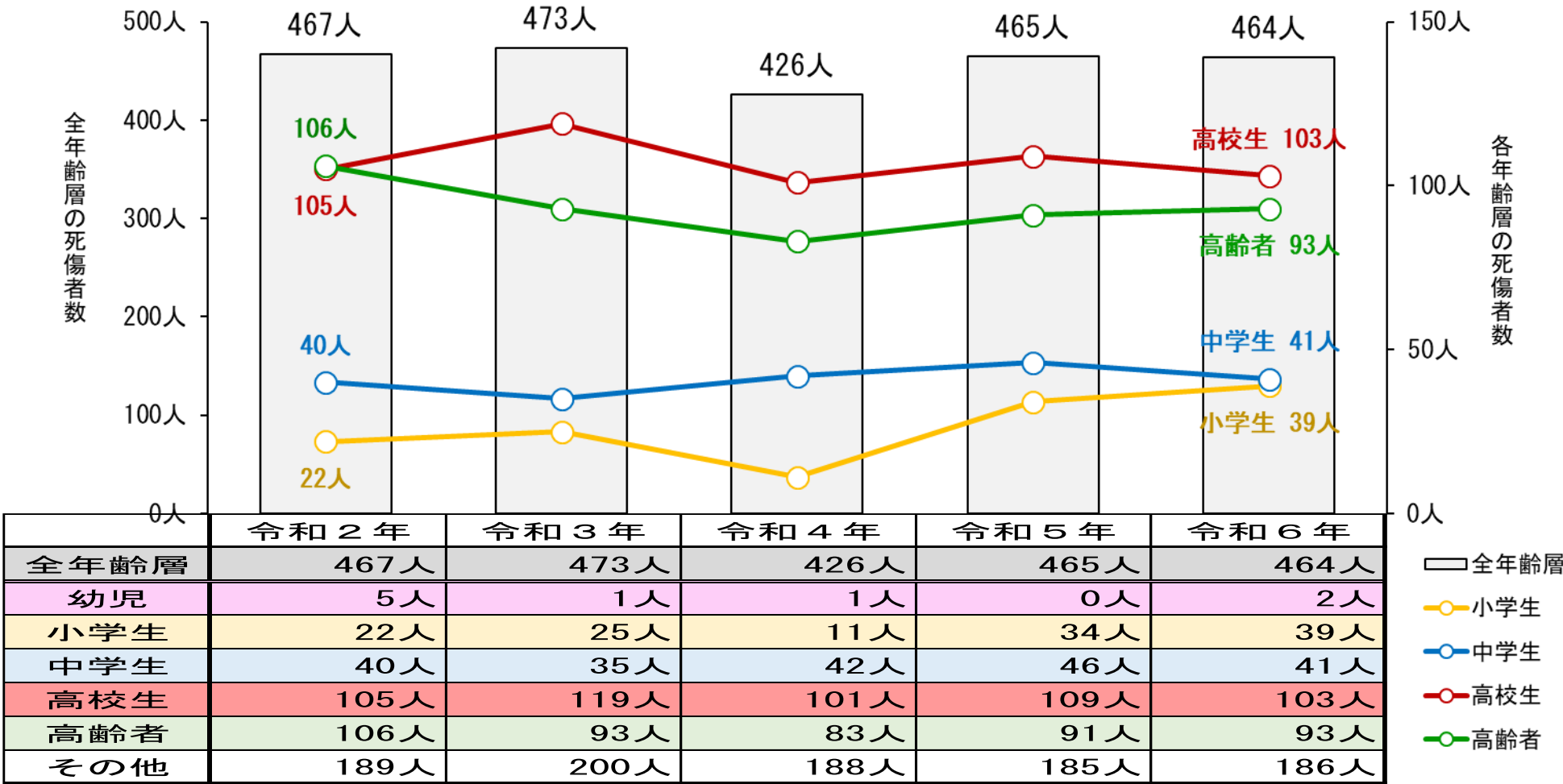


# 自転車乗用中の交通事故被害状況

【 過去5年間（令和2年～令和6年）推移 】

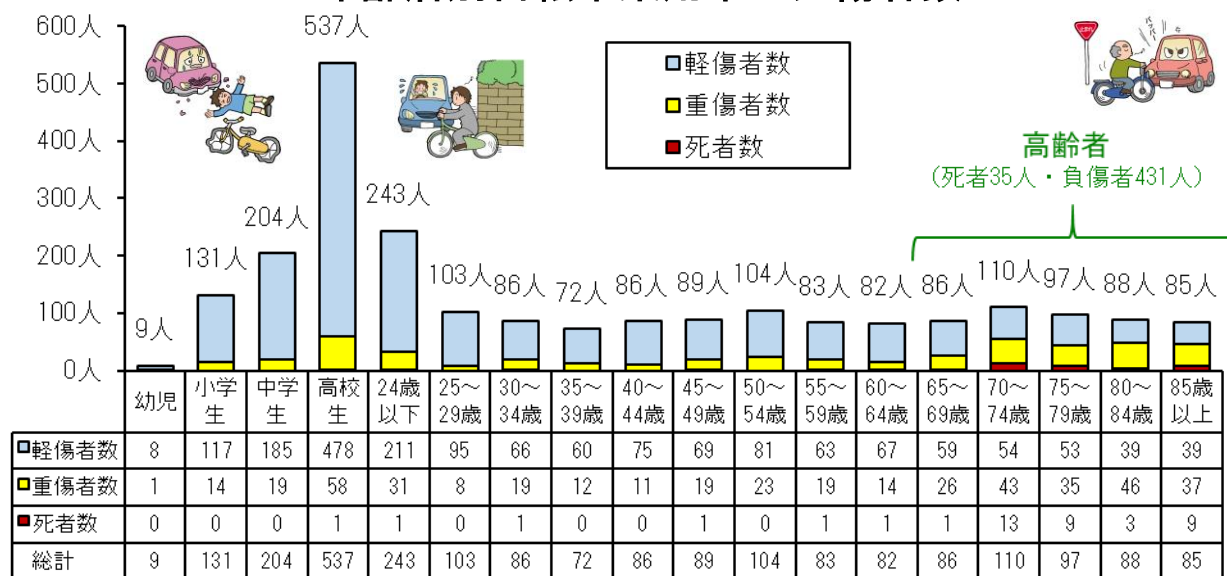
令和6年中の自転車乗用中の死傷者は464人（死者7人、重傷者82人、軽傷者375人）で、前年より1人減少  
特に、高校生の被害が全年齢層の22.2%を占めました。



# 自転車乗用中の交通事故被害状況

## 《 年齢層別自転車乗用中の死傷者数 》

【 過去5年間（令和2年～令和6年） 】



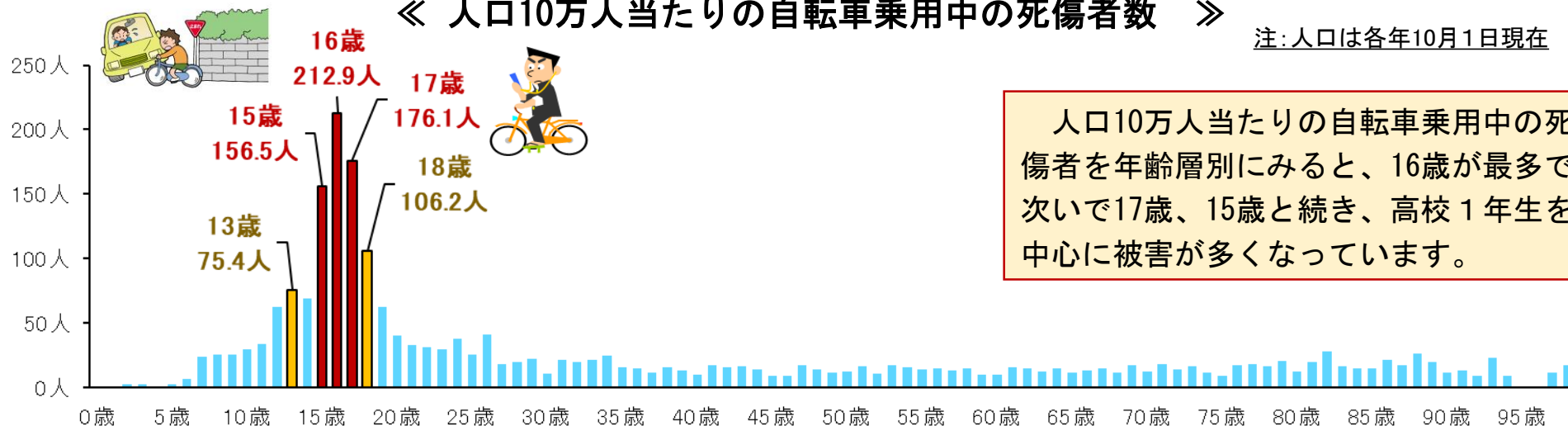
過去5年間の自転車乗用中の死者41人、重傷者435人、軽傷者1,819人であわせて2,295人の方が死傷しています。

このうち高校生の被害が最も多く、全年齢層の23.4%を占めています。

また、自転車乗用中の死者（41人）のうち高齢者は35人で、全年齢層の85.4%を占めています。

## 《 人口10万人当たりの自転車乗用中の死傷者数 》

注：人口は各年10月1日現在



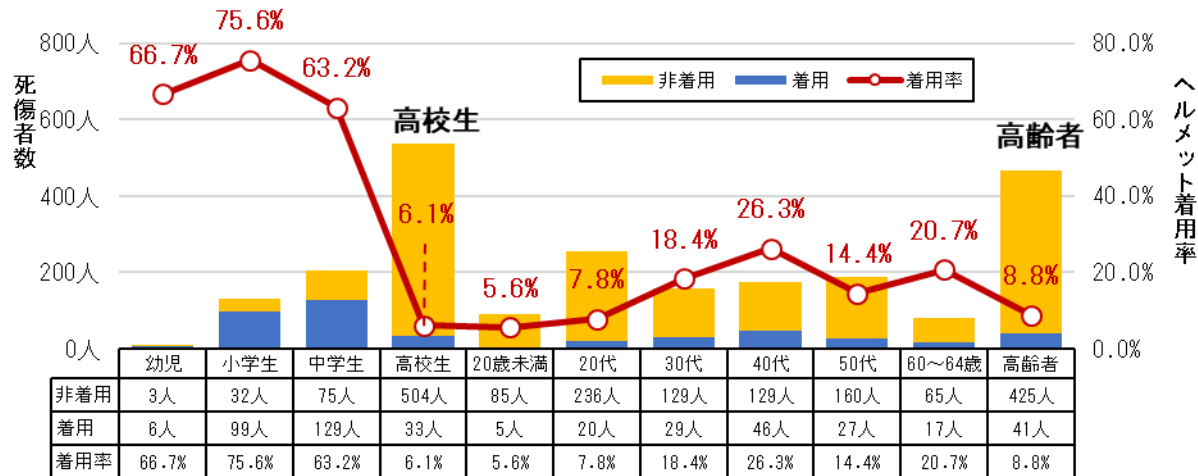
人口10万人当たりの自転車乗用中の死傷者を年齢層別にみると、16歳が最多で、次いで17歳、15歳と続き、高校1年生を中心に被害が多くなっています。

合計2,295人

# 自転車乗用中死傷者のヘルメット着用状況

【 過去5年間（令和2年～令和6年） 】

## 自転車乗用中死傷者の年齢層別ヘルメット着用率

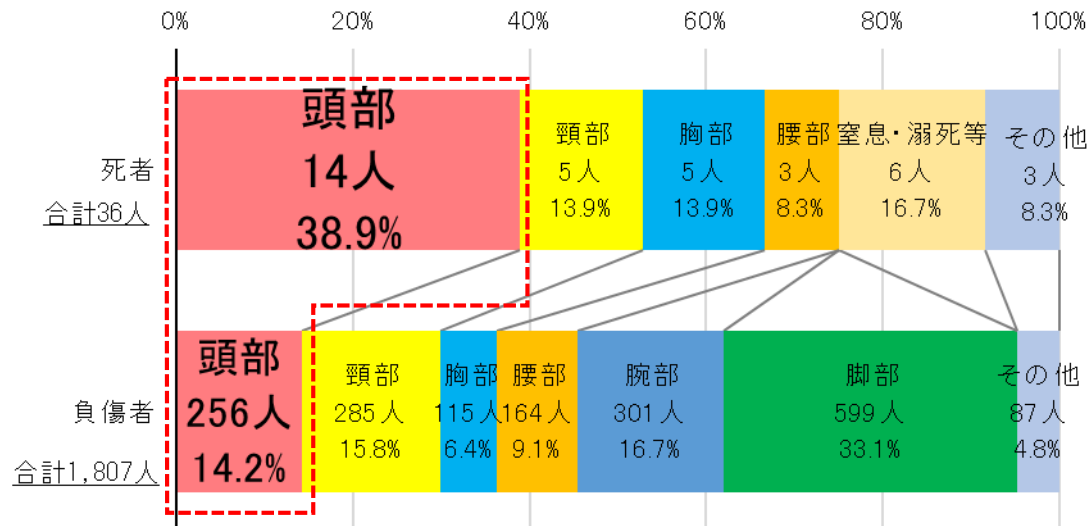


自転車乗用中死傷者全体のヘルメットの着用率は19.7%と低く、中でも高校生6.1%、20歳未満（高校生以下を除く）5.6%、65歳以上の高齢者8.8%と低い割合です。

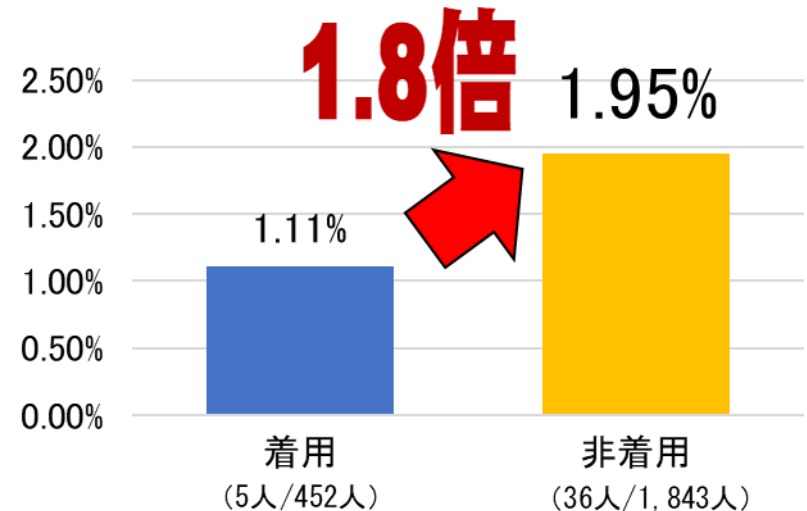
また、自転車乗用中死者のうち、ヘルメット非着用者の損傷部位を見てみると、約4割が頭部に致命傷を負っています。

さらに、ヘルメット非着用者の致死率は、着用者に比べて1.8倍高い状況です。

## ヘルメット非着用の自転車乗用中死傷者の人身損傷主部位



## ヘルメット着用状況別の致死率

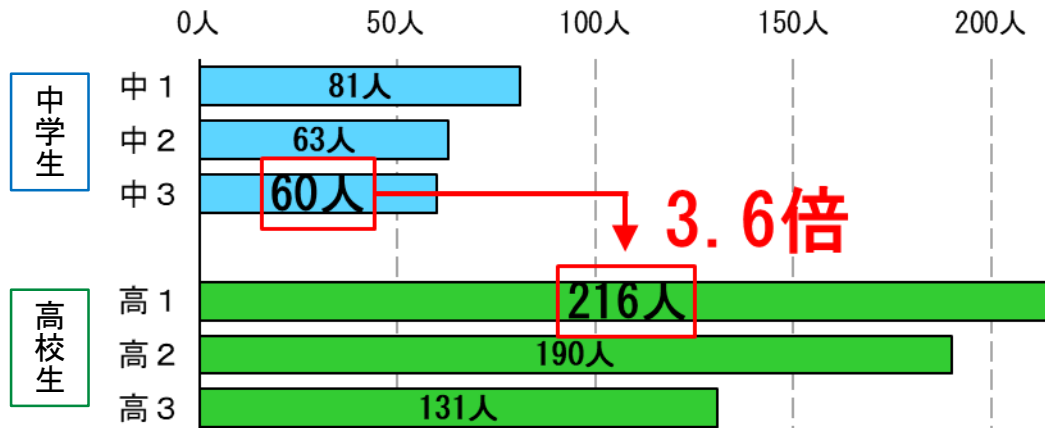


注：致死率＝死者÷死傷者（死者＋負傷者）×100

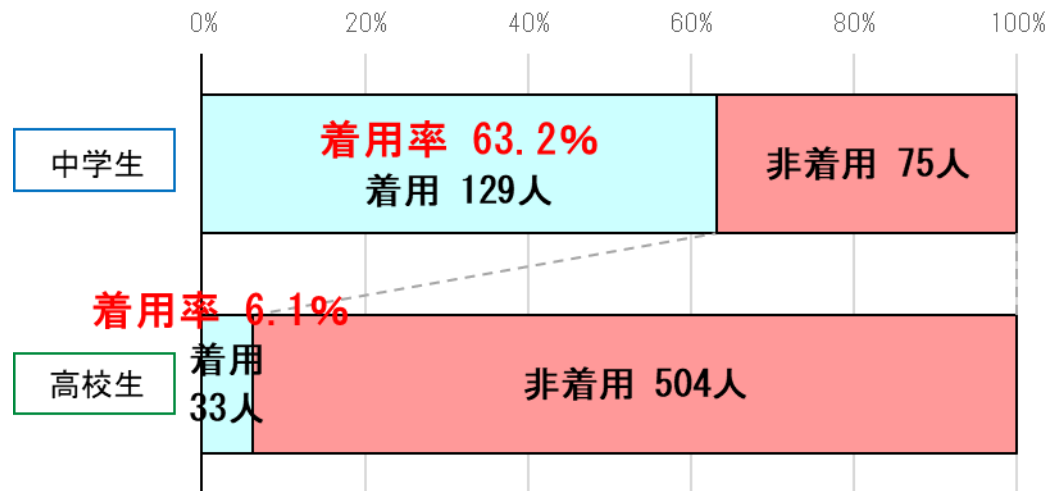
# 高校生の自転車関係事故

【 過去5年間（令和2年～令和6年） 】

## 《 中・高生の自転車乗用中の死傷者数 》

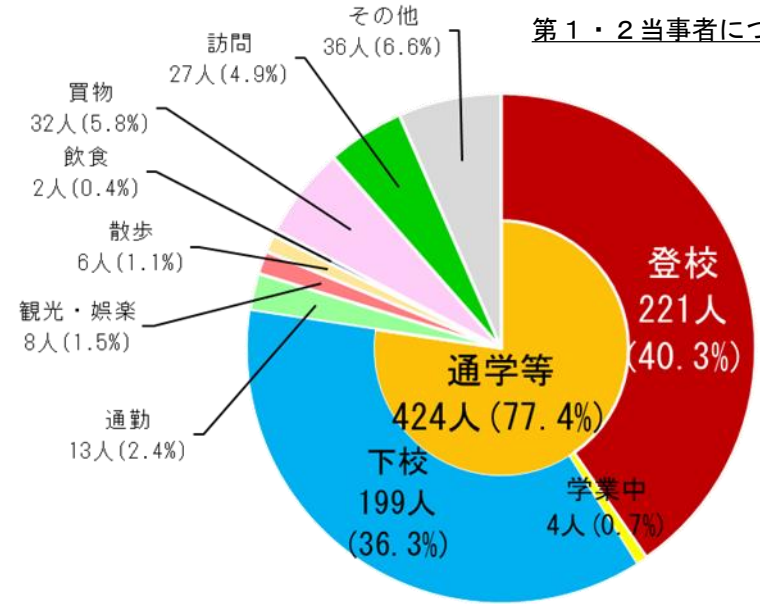


## 事故時のヘルメット着用状況



## 《 高校生の自転車・通行目的 》

第1・2当事者について調査



高校生になると、中学生と違い通学等で移動範囲が広がることもあり、自転車利用中の事故が多く発生し、中でも通学等の事故が約8割を占めます。

特に高校1年生の自転車乗用中死傷者数は、中学3年生より3.6倍多い状況です。

また、事故時のヘルメット着用率を見ると、中学生の63.2%に対して高校生は6.1%であり、高校生は中学生の約10分の1の着用率と低い状況です。